

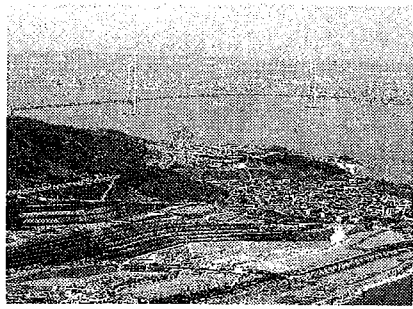
# 淡路ベッドタウン待望

## 明石大橋 通行料値下げへ

本州と淡路島をつなぐ明石海峡大橋の開通から、5日で15年を迎える。往來を妨げてきた高い通行料金も今も昔。来年度には新たな大幅値下げが予定され、島外からの移住を当て込む大規模宅地開発が続く。

大橋の淡路島側のたもとから、南へ約4キロ。甲子園球場約6個分の更地の一面に重機が並ぶ。

淡路市が、淡路花博(2000年)会場跡地で進め



ニュータウンの予定地(手前の更地)。後方は明石海峡大橋。3月30日午後、兵庫県淡路市、本社へりから、佐藤慈子撮影

るニュータウン開発だ。約1000戸5000人規模で、商業施設や病院を備える。片道4600円の高速バスでJR神戸線舞子駅まで約10分。市は島外からの移住を

当て込み、パンフレットで「京阪神への通勤圏内」を強調する。生活とリゾートの両立を目指す街開きは、16年ごろの予定だ。

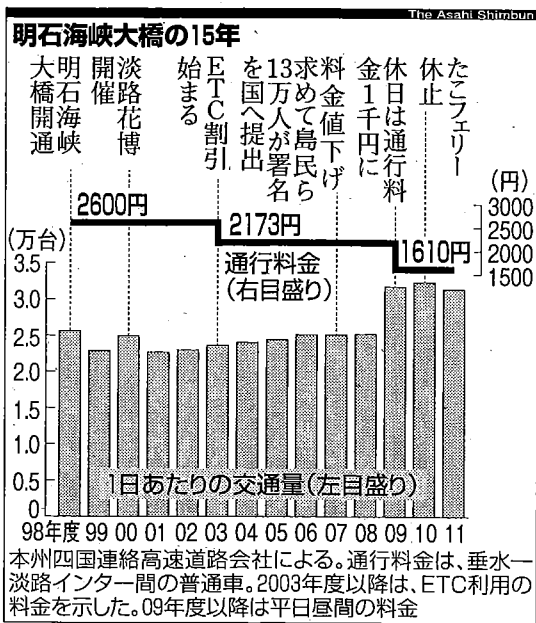
着工は12年7月。直前に国が大橋の通行料金の大幅値下げを決め(12年2月)、市の強気の計画の追い風になった。14年度から一般の高速道路並みの片道850

円(普通車、兵庫県試算)になると見込まれ、バス料金の値下げも期待される。実は1998年の大橋開通後にも、島北部の自治体で、移住を当て込む宅地開発が続いた。淡路市合併前の旧5町だけで計310区画を造成。だが購入者は島内在住者が大半で、今も28区画が売れ残っている。

むしろ、島全体の人口は開通前より2万人減(3月で約14万人)と、大橋も当初の宅地造成も人口減少を食い止められなかった。その一因が、開通当初の高い通行料金だった。市の担当者は「阪神間へ

### 明石海峡大橋の通行料金

垂水-淡路インター間の普通車料金は、1998年4月の開通時で2600円。2003年7月の引き下げにより、現金で2300円、ETC(自動料金収受システム)で2173円になった。09年3月、ETCで平日昼間1610円、休日(上限1千円(現在は1050円))に再値下げされた。



## 港は苦境

### 残るは高速船1航路

3月27日、第三セクター「明石淡路フェリー」が解散した。運航する「たこフェリー」(淡路島-明石市)は、09年に自民党政権が始めた高速

道路「休日上限1千円」の影響で利用者が激減。10年11月に休止し、68人の従業員は全員解雇した。

国土交通省神戸運輸監理部によると、大橋開通直前の97年度は367万台の車と1327万人の旅客が定期船で本州と淡路島を行き来した。しかし、その後航路9本が休廃止。今、高速船の1航路を残すだけだ。

の近き、海や緑に恵まれた住環境のよさをPRしたい」と力を込める。洲本市も13年度から、家族で転入した世帯に3年間、毎月1万〜2万円を支給する、独自の定住促進策に乗り出す。(吉田博行)